

赤潮情報（1）

令和4年6月29日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

6月28日に調査を行った結果、豊前海南部で有害プランクトンの一種であるシャットネラ属（*Chattonella* spp.）の増殖が確認されました（最高で1ccあたり37細胞）。さらに増殖した場合は魚介類のへい死を引き起こす恐れがありますので、注意が必要です。

< 有害プランクトンの状況 >

- シャットネラ属（*Chattonella* spp.）は、豊前海では通常6～8月頃に発生し、海水1ccあたりおよそ100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。
- 本種は海水1ccあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視できますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。また表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、表層海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。
- 変色域が見られた場合、その付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態に注意してください。またへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。

< 今後の状況 >

- 今後の天候次第では、本種がさらに増殖する可能性があります。研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報に十分ご注意下さい。

漁業被害、海水の変色などがみられましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：恵崎、後川）までご連絡下さい。

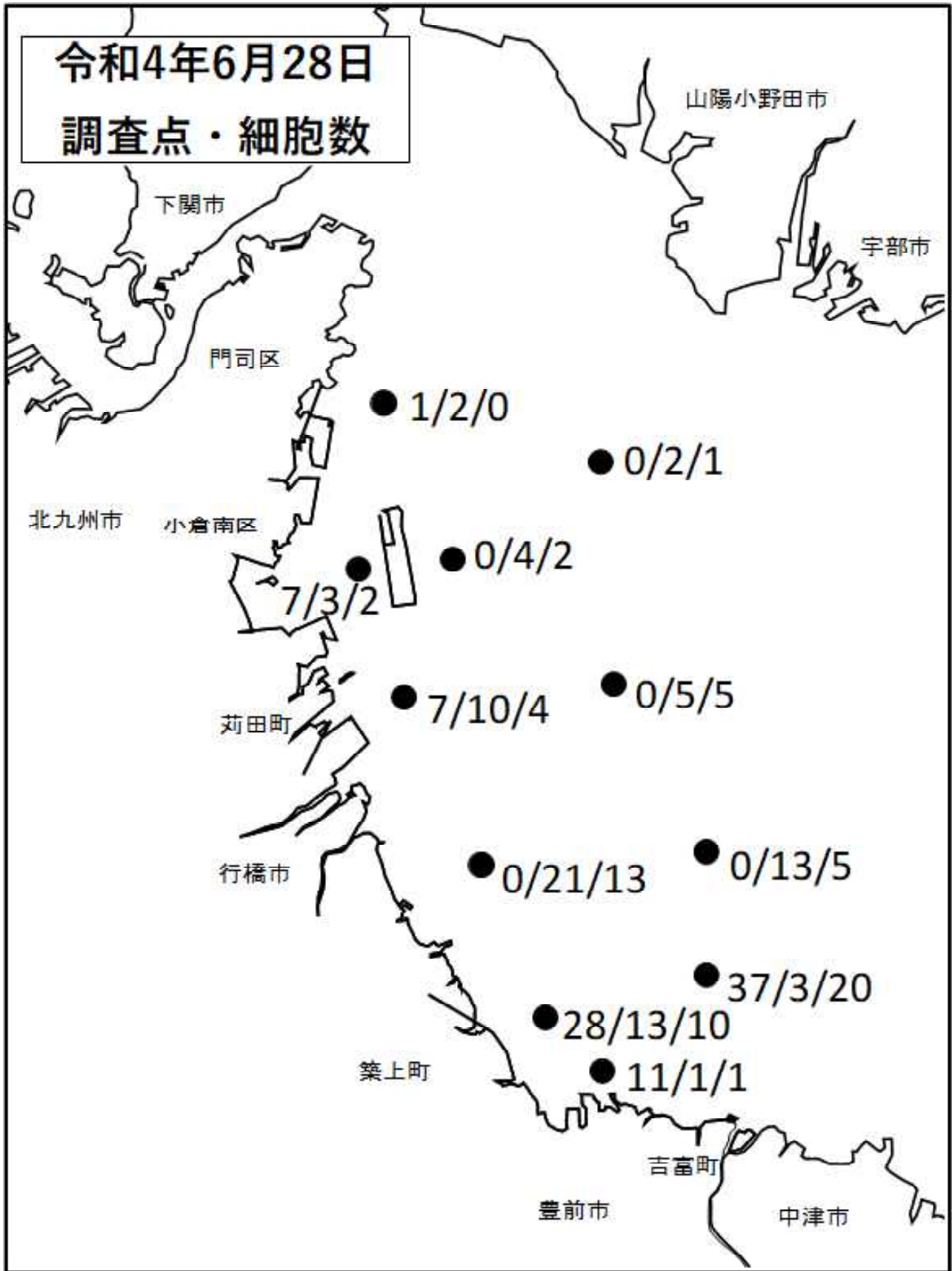


図 シャットネラ属細胞数（海水1ccあたり）

※ 数字は0m層 / 5m層 / B-1m 層の細胞数を示しています